



全国農委会長代表者集会

新たな「食料・農業・農村基本計画」

の策定等に向けた要請決議

11月28日、東京都のメル

パルクホールで令和元年度  
全国農業委員会会長代表者  
集会が開かれ、全国から約  
1500人が参加した。

広島県三次市農業委員会  
の橋本洋資会長、宮城県角  
田市農業委員会の白戸康一  
会長職務代理者、愛知県豊  
田市農業委員会の横糸釣会  
長が事例報告し、全国農業  
会議所の澤畑佳夫専門相談  
員が「人・農地プランの実  
質化を確実に進めるため  
に」をテーマに講演した。  
また、新たな「食料・農  
業・農村基本計画」の策定  
等に向けた要請等について  
大会決議が行われ、参加者  
は各県選出国会議員に要請  
活動を実施した。  
要請決議の主な内容は次

発行所

一般社団法人

兵庫県農業会議

神戸市中央区下山手通4丁目15-3  
兵庫県農業共済会館内

主な内容

- ◆女性農業者グループの活動紹介⑤「もち麦アイデア会」…2
- ◆ひょうごの農地有効活用シンポジウム2019…3
- ◆農業者の出合いをサポート（南あわじ市農委）…3
- ◆大嘗祭供納…4

3 担い手・経営対策

(1) 新規就農対策の強化

- ①人口対策の強化
- ②市町村段階における新規就農者のサポート体制強化
- ③「新規就農団地」の整備

(2) 経営継承対策の強化

- ①経営継承の推進体制整備
- ②家族農業経営の継承支援
- ③大規模土地利用型経営体の継承支援
- ④集落営農組織の継承支援

(3) 家族経営協定による農業の「働き方改革」推進

- ①労働力の確保と雇用した人材が活躍できる環境の整備
- ②農業生産現場における多様な人材の確保

(4) 労働力の確保と雇用した人材が活躍できる環境の整備

- ①農業生産現場における多様な人材の確保

(5) 都市農業の振興

- ①鳥獣害対策の強化
- ②大規模自然災害への支援と備え

(6) 農業委員会組織の体制強化

- ①農業委員会の業務体制の整備
- ②女性農業委員等の登用促進について

(7) 日本型直接支払制度の強化・拡充

- ①多様な主体による地域資源の維持・継承

**農地中間管理事業等改正法案が施行**

11月1日に、農地中間管理事業法等の一部改正法が施行された。今回の改正は、「人・農地プランの実質化」のための話し合いの活性化や、農地中間管理事業の事務手続きの簡素化などに主眼が置かれている。

プラン実質化に向けた取り組みは、すでに各地域で始まっているが、とりわけ、農業委員や農地利用最適化推進委員の積極的な参画が求められている。大切なことは、多くの農家などの参加のもとで地域の農地利用についても検討すること、作成されたプランを、いかに実現していくかである。状況の変化に対応したプラン見直しのため、話し合いの継続も重要である。

ための働き方改革の取組とICT（情報通信技術）の導入の促進

(3) 日本型直接支払制度の強化・拡充

(4) 多様な主体による地域資源の維持・継承

(5) 都市農業の振興

(6) 鳥獣害対策の強化

5 大規模自然災害への支援と備え

6 農業委員会組織の体制強化

(1) 農業委員会の業務体制の整備

(2) 女性農業委員等の登用促進について

# ひょうごの農地有効活用 シンポジウム2019

11月12日、たつの市総合文化会館・赤とんぼ文化ホールで「ひょうごの農地有効活用シンポジウム2019」が開かれ、県下の農業者や農業委員・農地利用最適化推進委員、県・市町・JA職員ら548人が参加した。県と兵庫みどり公社、県農業会議が共催したもので、シンポジウムでは、愛知県



## 農業シンポ「地域の話し合いからはじめる『魅力ある地域づくり』」

11月12日に開催した「ひょうごの農地有効活用シンポジウム2019」では、魅力ある地域づくり研究所代表の可知祐一郎氏をお招きし、「魅力ある地域づくり」をテーマにご講演をいただきました。

る講演、農業委員会会長及び会長職務代理者4人によるパネルディスカッションが行われた。人・まち・住まい研究所の浅見雅之代表がコーディネーターとして進行し、地域の話し合いや委員活動などにおける各パネリストの体験談を引き出した。また、農地バンクひょうごの山内博司機構長が、本年度から推進する「いきい

可知氏は、「魅力ある地域づくり」を進めるに当たっては、まず将来に対する危機感を地域全体で共有し取り組み機運を醸成することが重要であると強調されました。そして、地域の話し合いの中で、耕作者別の農地利用状況を地図に示し、現況把握と分析を行いながら地域の「目指すべき将来の姿」を作り上げていくこと、さらに、合意形成された将来像を

き農地バンク方式」について説明した。

## 農業者の出会いをサポート 女性農業委員・推進委員を中心に婚活イベント

南あわじ市農業委員会は11月23日、「出逢い物語PART5」と題した婚活イベントを同市内で開いた。毎年開催しており、今回が5回目となる。

市内在住の男性農業者と市内外の女性との出会いの

場を提供するもので、男性14人、女性10人が参加した。出席した女性参加者は、淡路島在住者のほか、神戸市や大阪府など県内外から集まった。

取り組みのきっかけは、「農業者支援のために、自分たちで縁結び活動をしよう」という当時の女性農業委員による提案だった。今回も女性農業委員4人と農地利用最適化推進委員1人を中心に企画を進めた。また、竹田孝司会長と森光男会長職務代理者も、農業者への参加の呼びかけや、市・JAへの協力要請、イベント当日の運営に加わるなどして協力した。

参加者らは、パン作り体験のほか、1対1で自己紹介をする時間や淡路島の特産品がもらえる宝探しゲームを通して交流を深めた。

イベント中のカップル成り立などの発表はしないが、過去の参加者がイベント後に再会し、結婚に繋がるなど、成果も出ているという。

企画・運営してきた女性委員らは「男女が知り合う場を提供し、交際につながる

ることで農業者の後継者不足を解決できれば」と口を揃えていた。

## ファーマーズ&キッズフェスタ2019に出展 県農業法人協会

県農業法人協会（八木隆博会長）は11月9日・10日、東京都日比谷公園で開催されたファーマーズ&キッズフェスタ2019に初めて出展参加した。

都心の消費者・子供達と農林水産業・食品産業をつなぐかけ橋として開催する同フェスタは、今年で10回目。2日間の開催日はともに好天に恵まれ大勢の人で賑わった。

当日は、同協会の3会員が出席し、9会員が協賛出品した。焼き芋の実演販売のほか、11種類に及ぶ県産米には、来場者が関心を示し1人で幾種類も買い求めていた。

このほか国産初のデュラム小麦のパスタや黒大豆の加工品なども好評で、本県の特産品を通じて都心の消費者との交流が図られた。